

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年 3月 31日
研究・研修課題名	生殖医療に従事する胚培養士育成、胚培養士資格更新の為の研修
研究・研修組織名(所属)	胚培養士育成研修(産科婦人科)
研究・研修責任者名(所属)	京 哲(産科婦人科)
研究・研修実施者名(所属)	三田 奈々子

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	三田 奈々子
学会名(会期・場所)、認定名等	生殖補助医療胚培養士
演題名・認証交付元等	日本卵子学会
取得日・認定期間等	2021. 5. 31
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

生殖補助医療胚培養士には高い専門性を有し、最新の知識を生かした技術及び高い倫理観を持つことが要求される。本院の培養業務従事者に日本卵子学会、日本受精着床学会、各種セミナー等に参加する機会を与え、生殖補助医療胚培養士資格、あるいは臨床エンブリオロジスト資格取得者が増えることで、より安全性の高い生殖医療を提供することを目的とする。

②方法

1カ年に2回以上卵子学会学術集会、講習会、セミナー、あるいは関連する学会学術集会(日本産婦人科学会、日本生殖医学会、日本泌尿器科学会、日本受精着床学会等)へ参加する。学会に参加し、30症例以上業務を行った年の翌年にある審査講習会を受講することで認定審査を受ける事ができる。1年に1回の認定審査(東京、2日間)に合格すれば資格を取得できる。

③成果

2021年度第20回生殖補助医療胚培養士資格認定制度資格認定審査に1名合格した。
このことにより、今後さらに、より安全性の高い生殖医療を提供することが可能になると考えられる。